

機関番号：兵庫教育大学
研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2008～2010

課題番号：20330184

研究課題名（和文）教職大学院のカリキュラム改善に関する調査研究

研究課題名（英文）A Study on Curriculum Improvement at Postgraduate Education Faculty

研究代表者

加治佐 哲也 (KAJISA TETSUYA)

兵庫教育大学 学長

研究者番号：40127634

研究成果の概要（和文）：教職大学院の「共通基礎科目」「専門科目」「実習科目」「課題研究」のすべてのカリキュラムとシラバスを見直し、改善した。そして、これら4つの科目の多面評価システムを開発し、常にPDCAサイクルが回る仕組みを構築した。また、これらの成果は、全国の教職大学院関係者や教育委員会、連携協力校の関係者に提供した。

研究成果の概要（英文）：Curriculum at postgraduate education faculty consists of four subject groups, “Common Basic Subjects,” “Specialized Subjects,” “Internship” and “Research on a Specific Problem.” We have reviewed and re-examined all the syllabi, and upgraded the curriculum totally. We successfully established a secure mechanism of letting “Plan-Do-Check-Action” cycle go at all times by developing a new multimodal assessment system on those four subject groups. We also provided the outcome of our new assessment system for relevant people all over the country, including staff members at postgraduate education faculty, board of education, pilot schools and so on.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	4,300,000	1,290,000	5,590,000
2009年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
2010年度	5,400,000	1,620,000	7,020,000
年度			
年度			
総計	13,500,000	4,050,000	17,550,000

研究分野：教科教育学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：カリキュラム改善，教育学，教育実践学

1. 研究開始当初の背景

教職大学院の授業は、現在の教育現場で生起している現象やその対応策及び教育現場のニーズに対処する高度で多様なカリキュラムが求められており、カリキュラムやシラバス内容・教育方法・教材の絶えざる開発が求められていた。

2. 研究の目的

実践的指導力を養うカリキュラム改善を

継続的に行うため、総合的な取り組みを実施し、本学教職大学院のカリキュラム及びシラバスの見直しや新しい教材開発を推進する。また、カリキュラムやシラバスの改善を常に行えるシステムを構築する。

3. 研究の方法

平成20年度は、コースごとに連携協力校や教育委員会を対象としたアンケート調査等を実施した。平成21年度は、教員

や学生が参加して、現行カリキュラムの現状と課題整理、改善の方向性を検討し、中間まとめを行った。平成 22 年度は、カリキュラム改善のためのワークショップを実施した。その後、カリキュラム改善案を作成し、シンポジウムを開催した。そして、シンポジウムでの議論を受けて、「教職大学院のカリキュラム改善に関する調査研究報告書」を作成した。

4. 研究成果

平成 20 年度は、コースごとに連携協力校を対象としたアンケート調査等を実施した。

「学校経営コース」は、50 校を対象に、①学校課題調査、②学校管理職に求められる能力調査、また、③教育委員会における教育行政専門職に求められる能力のアンケート調査、④学校管理職と教育行政専門職の能力開発方法を調査した。本調査により、目指すべき学校管理職と教育行政専門職像の輪郭をその習得に適した方法を明確にした。

「授業実践リーダーコース」は、11 校 15 人の教員に、「よい授業」の特徴や成立条件、必要とされる力量、学習観・指導観などについてインタビューを行ない、「授業力」概念について、教職歴による多様性と共通性を検討した。また、約 180 校の教頭を対象に、専門科目で扱う知識やスキルのリストを提示し、①ミドルリーダーとしての必要度と、②現場での実習可能性の 2 次元で評定を求める質問紙調査を実施した。

「心の教育実践コース」は、小・中学校の教員 12 名を対象にインタビュー調査を実施した。まず、現在の学校現場で生起している「心の教育」にかかわる問題事象とそのような問題事象へ対応するために必要なリソース（知識、能力等）について調査した。次に、カリキュラム改善のための基礎的な資料となる学校現場の教員の「学び」に対する考え方（「学習観」）について調査した。

「小学校教員養成特別コース」は、アンケート調査の妥当性をより高めるため、幼稚園教員と小学校教員を対象に、幼小連携を進める上で必要な知識・意識や態度・技術や技能についてインタビュー調査を実施した。本調査により、現場教員らの意見を聞くことで、どのような教員を養成するべきかについて実践的な知見を得た。また、学校現場における幅広い教育の実態を適確に把握することができ、21 年度実施する調査項目について検討を行うことができた。

平成 21 年度は、平成 20 年度の研究成果をベースに、コースにおいて次の研究を実施した。

「学校経営コース」は、20 年度の調査が小中学校中心であったため、本年度は、高等

学校・特別支援学校の学校課題調査と、学校管理職に求められる能力調査のために、学校ヒアリングと教育委員会ヒアリングを行った。さらに、修了生や在学生からのヒアリングを行うことで、本コースの現行カリキュラムの現状と課題を整理した。

「授業実践リーダーコース」は、20 年度の調査を踏まえ、現職研修や教育実習のプログラムなどを参照しながら、現行カリキュラムの改善と関連づけて、「授業力」の高度化に向けての方策を明らかにしていくための調査を行った。また、質問紙調査の分析をもとに、学校現場、大学教員、受講生にインタビューを行った。そして、海外の大学との共同研究も視野に、専門科目の内容と実習内容の関連に関する改善可能性と新しいヴィジョンについて考察と提案を行った。

「心の教育実践コース」は、20 年度のインタビュー調査の結果を踏まえ、さらに詳細なインタビュー調査を行った。また、20 年度の調査結果からカリキュラム改善のための主要な論点を抽出し、それにかかわるアンケート調査を計画・実施した。さらに、コースの修了生や在学生に対してもインタビュー調査を実施することで、本コースの現行カリキュラムの現状と課題を整理した。

「小学校教員養成特別コース」は、20 年度に実施したインタビュー調査と文献等をもとにして調査項目を再度検討し、連携協力校のうち小学校 50 校の教員を対象としてアンケート調査を行った。また、可能な範囲で幼稚園の教員も対象とした調査を行い、幼稚園・小学校それぞれの立場を理解した上で幼小連携が推進できるような教員を養成するにはどのようにすべきかについて検討を行った。

以上、各コースの研究を統合・整理し、年度末には「中間報告書」を作成し、学内に公表した。

平成 22 年度は、平成 20 年度と 21 年度の研究成果をベースに次の研究を実施した。

①平成 21 年度末に、学内に公表した「中間報告書」をベースにして、各コースにおいてカリキュラム改善のためのワークショップを実施した。このワークショップには、本科研関係者（研究分担者、授業改善・FD委員会委員）だけでなく、各コースの専任教員、本学教職大学院の兼任教員・非常勤講師、学校教育現場に通じた教員及び教職大学院生にも参加を求め実施した。

②各コースのワークショップの後、「教職大学院のカリキュラム改善案」を作成し、平成 23 年 2 月 27 日に神戸国際会館において「教職大学院総合シンポジウム」を開催した。このシンポジウムには、教育委員会関係者、連携協力校関係者、外部評価委員会委員、教職大学院非常勤講師及び大学関係者等が参

加し、議論を深めた。

③「シンポジウム」での議論を受けて、「教職大学院のカリキュラム改善に関する調査研究報告書」を作成した。この報告書には、本調査研究に係る必要性と目的、研究実績、「共通基礎科目」、「専門科目」、「実習科目」、「課題研究」に係る改善案、改善に係る取り組み、「実習」、「課題研究」の評価に係る取り組み、参考資料等について記載した。

④本報告書は、全国の教職大学院関係者や教育委員会、連携協力校の関係者に提供した。これらの報告書や授業評価システムは、本学ホームページで公開する予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- ①加治佐哲也, 兵庫教育大学大学院における教員リカレント教育の最前線(教職大学院), 兵庫教育大学教育・社会調査研究センター国際シンポジウム 2008 報告書, 査読無, 2009, pp. 84-105
- ②加治佐哲也, 教職キャリアの全段階のスクールリーダー養成ー兵庫教育大学教職大学院ー, 教職研修, 査読無, 2009, pp. 52-55

[その他]

「教職大学院のカリキュラム改善に関する調査研究」調査報告書, 兵庫教育大学教職大学院, 2011, 474

6. 研究組織

(1) 研究代表者

加治佐 哲也 (KAJISA TETSUYA)

兵庫教育大学・学長

研究者番号: 40127634

2008~2009

梶田 叡一 (KAJITA EIICHI)

前兵庫教育大学学長

研究者番号: 70000065

(2) 研究分担者

米田 豊 (KOMEDA YUTAKA)

兵庫教育大学・学校教育研究科・教授

研究者番号: 80432582

原田 智仁 (HARADA TOMOHITO)

兵庫教育大学・学校教育研究科・教授

研究者番号: 90228651

浅野 良一 (ASANO RYOICHI)

兵庫教育大学・学校教育研究科・教授

研究者番号: 10452509

新井 肇 (ARAI HAJIME)

兵庫教育大学・学校教育研究科・教授

研究者番号: 60432580

2009

西村 年晴 (NISHIMURA TOSHIHARU)

前兵庫教育大学理事・副学長

研究者番号 00011750

2008~2009

川本 幸彦 (KAWAMOTO YUKIHIKO)

前兵庫教育大学副学長

研究者番号: 40403307

2008~2009

加治佐 哲也 (KAJISA TETSUYA)

兵庫教育大学・学校教育研究科・教授

研究者番号: 40127634

2008~2009

渡邊 満 (WATANABE MICHIRU)

前兵庫教育大学・学校教育研究科・教授

研究者番号: 30127740

2008

勝野 眞吾 (KATSUNO SINGO)

前兵庫教育大学理事・副学長

研究者番号: 70098523

2008

岩田 一彦 (IWATA KAZUHIKO)

前兵庫教育大学・学校教育研究科・特任教授

教授

研究者番号: 40020119